

消化器外科

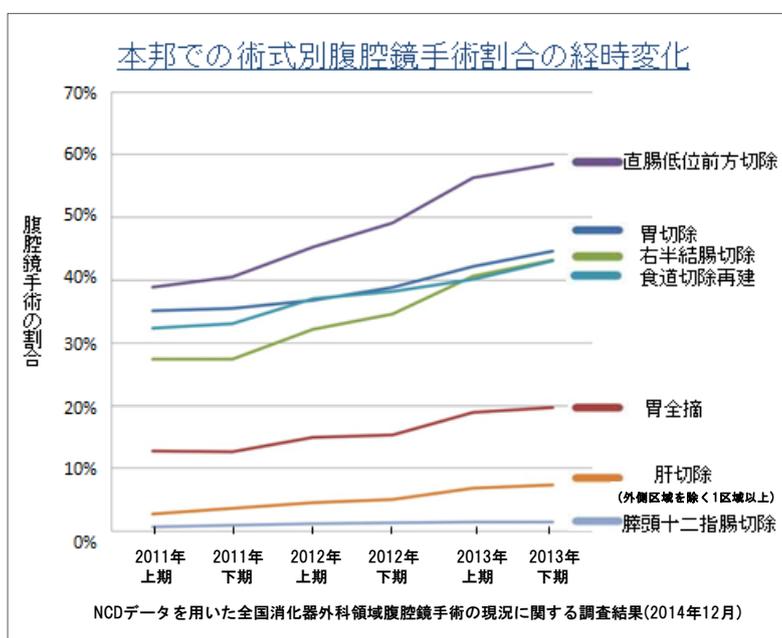
消化器領域における 腹腔鏡下手術の現況と課題

外科医長 難波江 俊永
Nabae Toshinaga

この10年で消化器領域における鏡視下手術が急速に普及してきました。従来は開腹あるいは開胸手術が必要であった消化器がんの手術の多くが鏡視下手術の保険適応になっています。2014年の全国における統計では食道がん症例の約40%、胃部分切除症例の約45%、胃全摘症例の約20%、直腸がん症例の約60%、大腸がん症例の約45%が鏡視下手術でした（グラフ）。

一方、胃癌治療ガイドライン(2014年版)では胃癌に対する腹腔鏡下手術はいまだに臨床研究段階の治療です。大腸癌治療ガイドライン(2014年版)では直腸がんに対する腹腔鏡下手術は、その有効性と安全性は確立されていないため臨床試験として実施することが望ましいとされています。腹腔鏡下手術がこれからさらに普及するためには大規模ランダム化比較試験の結果を待たなければいけません。

当院では従来より、消化器がんに対する鏡視下手術を積極的に取り入れています。胃がんや大腸がん・直腸がんに対する鏡視下手術はほぼ定型化され、開腹手術より良好な短期予後です(表)。今後は鏡視下手術の長期予後の検討が必要と思われます。



手術死亡率 (手術関連死)

症例数	腹腔鏡手術割合	全体死亡率 開腹+腹腔鏡	腹腔鏡手術死亡率
胃切除術: 101481例	39%	1.07%	0.43%
胃全摘術: 57997例	15.7%	2.27%	0.89%

腹腔鏡手術に関する全国調査結果(2014年12月)

症例数	腹腔鏡手術割合	全体死亡率 開腹+腹腔鏡	腹腔鏡手術死亡率
胃切除術: 610例	87%	0.33%	0.19%
胃全摘術: 312例	75%	1.28%	0.42%

当院における胃がん手術(2006年1月~2015年3月)